

# 関西支所

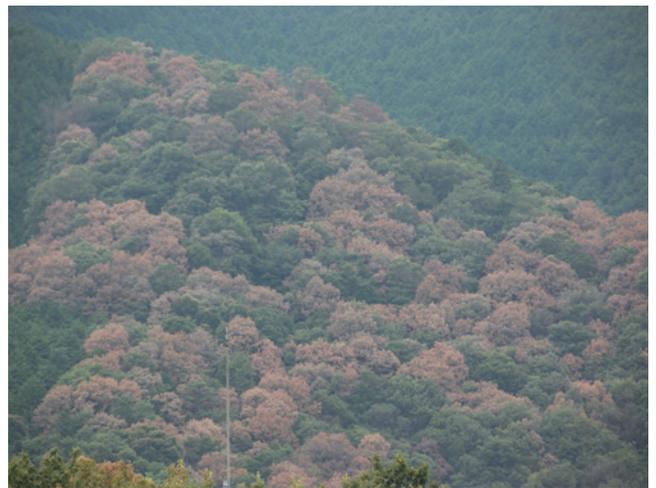
関西支所は近畿・中国地方から北陸地方の一部の2府12県の森林を対象としています。この地域は、小規模所有の民有林が広く分布し、森林は古くから人間活動とともに変化してきました。そのため、関西支所では里山の公益的機能及び生産機能の保全・管理手法の開発を目指して研究を進めてきました。

この地域の落葉広葉樹林は、かつて薪炭林として利用されてきましたが、燃料革命以降利用されなくなり放置されたために大径化し、ナラ枯れ被害が拡大する一因となっていました。また、大径化したコナラなどの広葉樹の多くは萌芽能力が低下し、「木を伐りながら生産する」里山の持続的森林管理が困難になっています。そこで、住民と協働して小面積を皆伐し、それによって生産される薪を有効利用する里山再生に取り組んできました。それとともに、ナラ枯れの防除法や近年増加してきたシカの個体数管理のための捕獲技術の開発にも取り組んでいます。

木材生産を目指した人工林管理については、この地域ではヒノキの植栽面積が多いことから、ヒノキコンテナ苗を利用した一貫作業システムの有効性の検証、下刈りの軽減など低コスト再造林技術の開発に取り組んでいます。



地元住民とともに里山を再生する



ナラ枯れした里山のコナラ林



試験植栽前のヒノキコンテナ苗



シカ捕獲のためのドロップネットの設置